

ひょうご MIN - I R E N

423

2025.5・6
合併号

2025年度兵庫県民主医療機関連合会 新入職員研修会

2025年4月11日(金) 三ノ宮コンベンションセンター



2025年度

新入職員研修会 開催

4月11日(金)三宮コンベンションセンターで、2025年度兵庫民医連新入職員研修会を開催しました。各法人から新入職員と2024年度の中入職者あわせて93名が参加、1年目研修の獲得目標である「民医連綱領」について学びました。

午前中は藤岡事務局次長による「民医連の概要と兵庫民医連の歴

史」の講義があり、午後からは各グループに分かれて、午前中の学びを「民医連かるた」にするグループワークを行いました。配布された学習資料を紐解きながら意見交換を重ね、世界にひとつしかない「民医連かるた」が完成しました。また、青年ジャンボリー交流企画の「9マスビンゴ」でさらに交流が深

まりました。10月のフォローアップ研修での再会が今から楽しみです！





事業所・職場紹介

輝いています！

本部はよろず相談所 ～仕事の`スキマ`、お埋めします～

たじま医療生活協同組合 本部 春木 圭介

たじま医療生活協同組合には、ろっぼう診療所と介護事業所えがお、本部があり、本部には4人が所属しています。法人全体を統括する専務理事をはじめとして、経理担当、組合員担当、有償ボランティア「なんなっと」担当と、個々受け持っている業務に当たっています。



▲なんなっと事務局はプレハブ

当法人は規模が小さいので、本部の仕事だけをするという訳にはいきません。ろっぼう診療所や介護事業所に関わる仕事も少なからずあります。例えば、診療所の患者送迎に関することや、介護事業所の車両や物品、パソコン管理等です。それらを

分担して、全体として円滑に進むようにしています。事務職は専門職を補完する仕事であり、私は「事務職とはスキマ産業である」と思って日々業務に当たっています。

さて、兵庫民医連で最北の地にあるたじま医療生協には、他の法人にはない仕事があります。それが「雪かき」です。患者さんが来院するまでに、ろっぼう診療所駐車場の雪かきをしなければなりません。時には雪が降りしき中約1時間、黙々と除雪を行います。一仕事終わってから日常業務をするのは、事務といえども重労働に感じます。



▲雪の中の送迎車



▲本部事務所

たじま医療生活協同組合は、今年創立30周年を迎えます。2004年の台風23号の水害では、県連をはじめとした民医連の仲間に助けいただきました。組合員、職員は本当に感謝しています。おかげさまで、当初1000人だった組合員は約4500人となり、事業所も増えて大きく発展しました。大きくなるということは、スキマも増えていきます。これからも、職場のみならず、組合員の要望のスキマも埋めることができるように心がけていきたいと思えます。

事業所の窓から～歴史と地域紹介～

たじま医療生活協同組合

心の地固めの旅

20

「みなひとの つくりしつみわ すなのかず なみにうちけし そのみじょうどへ」 ～但馬六十六地蔵尊～

大昔、但馬地域は一面泥の海で、人々は大変な苦勞をして生活をしていました。そこで「天日槍（あめのひぼこ）」が円山川下流の瀬戸（現豊岡市）の岩山を開き、泥を日本海に流して、但馬の地が作られたと言われています。これを天日槍伝説といいます。

それでもなかなか泥が乾かないため、地面が固まるように但馬全域の六十六ヶ所に、「地固め地蔵」を祀りました。その結果地面が固まり、人々が生活しやすい国になったそうです。

美方郡香美町香住区七日市にある第一番札所から、豊岡市出石町奥山の第六十六番札所まで順に巡ると、大きな「訶」の文字（地蔵菩薩の梵字）になります。ちなみに、見出し



地蔵菩薩を表す梵字
「訶」。ご真言は「オン
カカカ ビサンマ
エイ ソワカ」

の御詠歌は一番札所のもので、全ての札所に二首ずつあり、六十六番札所には五首の御詠歌があります。

但馬六十六地蔵尊巡礼信仰は、江戸時代中期以降に始まったとされ、このようなことは全国的にも例がないそうです。昔の日本は六十六の国に分かれていたことから始まったともいわれています。そのため、但馬全域を巡る約180kmの巡礼の道をまわると、全国をまわるほどの功德が得られるといわれています。



打納となる第六十六番札所。堂内には入れませんでしたが、美しく彩色された本尊を中心にして、三体の地蔵尊が安置されています。



今回の取材で訪れた各札所で、昨年四国八十八か所を巡礼した際の作法に準じて「開経偈、般若心経、地蔵菩薩真言、光明真言、大師宝号、回向文」を唱えました。これが但馬のお地蔵さんを巡る時の正しい作法かはわかりません。しかし、般若心経を唱えていると、日常の小さなことに揺れて固まらない心が、固まっていくような気持ちになりました。これも、お地蔵さんのおかげだと思います。「心の地固め」効果もあるように思いました。機会を作り、ぜひ全て歩いてみたいと思います。



第四十八番札所。広い境内には約40体のお地蔵さんが並んでいます。どこも地元の方たちがきれいにされています。



但馬と丹波の境の遠阪峠にある四十番札所の地蔵堂。中央に安置されているのが本尊で、向かって左には弘法大師の像があります。

新入職員研修スタート！～仲間とともにつながろう～

36名が参加「つながり」と「いのちの平等」を学んだ4日間

神戸医療生活協同組合 職員教育委員会 野口 亘

本年度の新人職員研修には、近年で最多となる36名の新入職員が参加しました。医療・福祉の現場を支える一員としての第一歩を踏み出す彼らは、4日間にわたる充実したプログラムを通じて、民医連および医療生協の理念と実践を深く学びました。



初日には、「いのちの平等」「つながって、ともに生きる」といった民医連の基本理念を、講義やDVD視聴を通じて学習。組織の歴史や災害支援活動、感染対策、労働のルールなど、職員として必要な基礎知識についての説明も行われ、社会人・医療人としての心構えを育みました。

さらに、医科・歯科・薬局・介護といった多職種の医療活動の紹介により、それぞれの現場での実践イメージが広がりました。ビジネスマナーやメンタルヘルスに関する研修も行われ、医療技術だけではなく、人として成長するきっかけともなりました。

昨年に続き実施された地域フィールドワークでは、組合員の地域活動に直接触れる機会を設け、医療と地域の「つながり」を体感。参加者からは「相手の立場に立ててできることを考えていきたい」といった声も聞かれました。

また、先輩職員からの温かいメッセージやBLS（一次救命処置）講習も行われ、職場でのリアルな知識と経験に触れることで、自らの役割を再認識する時間となりました。



参加者一人ひとりが、民医連の理念を肌で感じ、自分がここで働く意味を見つめ直す貴重な研修となりました。この学びを土台に、今後の実践へとつなげていくことが期待されます。



研修で「法人の強み」を学ぶ

姫路医療生活協同組合 職員育成委員会 井上 理華

桜の花がほころび始めた4月1日、入職辞令式を執り行いました。今年度は新卒者3名を迎え、新入職員研修を行いました。入職辞令式終了後、法人内の事業所を訪問しました。



当初は社会人初日で緊張した面持ちの3名でしたが、移動中の車内で学生時代の話に花を咲かせ、少しずつ打ち解けていきました。



最初に訪問した「福祉介護センターてがら」は、姫路医療生協でも最大級の福祉介護センターです。デイサービス・看護小規模多機能・居宅介護支援事業所・訪問看護の説明を受け、法人の介護サービスについて理解を深めました。



次に訪問した共立歯科では、毎年恒例となっている技工室を見学し、歯科技工士からの説明を熱心に聞き入っていました。所長から医科歯科連携について説明があり、法人内連携の強みを知ることができました。

途中、職員の配属先の事業所を訪問し、最後に共立病院を訪問しました。最新の設備と理事長室から見える姫路城に感動し、事業所訪問は終了しました。

一日目の午後からと二日目は動画視聴も交えながら、対面で研修を行いました。内容は、①オープニングムービー ②組合員理事からのメッセージ ③法人のあゆみ ④就業規則・福利厚生制度 ⑤認知症コミュニケーション ⑥感染対策 ⑦介護保険制度 ⑧10の基本ケア ⑨身体拘束・虐待防止等 ⑩ビジネスマナー ⑪口腔ケア です。

最終講義は、配属先の統括責任者からのオリエンテーションを実施し、配属される業種について説明を受けました。

新入職員のみなさま、あらためて「入職おめでとうございます＆入職ありがとうございます！」

いのちの平等、人のつながりの大切さを学んでスタート！

医療法人神戸健康共和国 職員育成委員会 山岸 美緒

医療法人神戸健康共和国と神戸医薬研究所では、4月1日から4日にかけて合同で新入職員研修を行い、25年度新規採用者と24年度期中採用者の合計21名が参加しました。

入職式での辞令交付後、神戸健康共和国の歴史と組織、医療介護活動の紹介、東神戸医療互助組合の活動、平和と社会保障の活動紹介などに加え、BLSやTeamSTEPPSなど実践的に医療安全の取り組みを学びました。

講義の中で「貧富の格差が引き起こす孤立などの社会的問題をどのようにして解決していけるか、地域の方や職員の方と共に働きながら良い方向へ向かえるように考えたい」「格差拡大や物価上昇で貧困層が生活しにくくなっていることに対し、無料低額診療事業で、医療を受ける権利を守る東神戸病院の重要さがよく分かりました」などの感想が出されました。

今年度も地域訪問活動で病院周辺支部の組合員さんから、病院の印象や要望、組合員活動の様子をインタビューしながら交流しました。



組合員との交流を通して、「言葉をかわし、顔を知ることによって孤立を防げればとの考えに活動の深さを感じました」「人とのつながりを積極的にとられていて、いきいきとされていました。孤独死も意識されており、単身世帯も多い今の社会の問題点でもあると感じました」と、人と人の繋がりづくり・居場所づくりの大切さを学んでいました。

初日は緊張していた新入職員も、日ごとに打ち解けあい、学びを深め合う研修になりました。

学びを力に、これからも共に頑張りましょう。



笑顔の花が満開です

尼崎医療生活協同組合 人事教育課 堀 奈智子

4月1日から4月4日の4日間、新入職員研修を開催しました。今年は新卒、既卒合わせて31名の新入職員を迎える事が出来ました。期中入職の職員も研修に参加し、最大52名で研修を行いました。



最初は緊張していましたが、アイスブレイクやグループ交流を取り入れた研修で、笑顔と笑い声が増えてきました。

最終日は31名が5グループに分かれ、各診療所へ自分たち

で公共交通機関を調べて訪問し、自分たちが訪問した事業所を紹介する壁新聞を作りました。

診療所の特徴、歴史、組合員さんとの関わりの3つをミッションとして、それぞれがフィールドワークに参加しました。なかには話を聞ける時間が無くなると、大急ぎで出発するグループもありました。

戻ってきたグループから壁新聞の作成をはじめましたが、写真を貼る人、文字を書く人、絵を描く人、発表内容を考える人とスムーズに分担を分けて作業していました。グループの一体感ができ、楽しく壁新聞を作成する事ができました。



各グループ発表では「私たちの診療所が一番！」というように、それぞれの診療所のよい所を発表し、最後に壁新聞を持って笑顔で写真を撮りました。

最終日には桜も満開になり、笑顔あふれる仲間を頼もしく感じました。



県連医学生担当 荒木麻さん着任のお知らせ



4月より医学生担当になりました荒木麻と申します。

これまでに歯科や組織部、病院の健診係などで勤務してきました。医学生担当の仕事は今までに経験したことのない分野での業務内容なので不安も大きいですが、自分にできることは精一杯取り組みたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

休日は子どもと季節ごとの遊びをして過ごしています。とくに夏の高知は好物でよさこい祭りに毎年元気をもらっています。老後は高知に住みたいとさえ思っています。

読者の声

●神戸協同病院の植中看護師さんの記事が印象に残りました。お母さんの時のように、寄り添い励ます看護師さんなのだろうなあと思いました。転んで骨折し現在リハビリ中です。片手が使えないってこんなに大変なのかと健康の有り難さを実感しています。

宝塚医療生協本部事務局
川内真希

●暖かい日が続くかと思いきや、寒くなったり、三寒四温とほんとその通りですね。花粉も飛び始め、辛いシーズンがやってきました。

ペンネーム ちこ

●3・4月号は阪神・淡路大震災の特集でした。30年経ちましたが昨日のように思い出されます。この間も大災害が続き被災者の状況は改善されないまま…

「地震は止められないが、震災は止められる」は本当ですね。

神戸医薬研究所OB 村川美和子

●30年前の震災の年の1月15日に三宮にショッピングに行っていました。一歩間違えば震災に遭遇していたかも知れませんでした。震災以来神戸には行けていませんが50年位前に4年間住んでいた灘区やショッピングしていた三宮に元気なうちにもう一度行ってみたいと思っています。

ヘルパーステーションあぼし
栗林由季

●震災30年特集を読んで、小さい子供を連れてちかくの公園に来てくれた自衛隊の給水車にやかんを持って並んだことを思い出しました。水や電気の供給の有り難みを忘れてはいけないと改めて思いました。

ペンネーム ナナ

●今年初めてメモリアル集会に参加しました。阪神・淡路大震災を体験した身ですが、自分の全く知らなかった側面を知って、震災の影響で人生が大きく変わった方や未だにローンなど経済的な苦勞を背負っている方がいることを知りました。災害の多い日本が被災者に優しい国になることを願わずにはいられません。

ペンネーム JAM

まちがいさがし 5・6月

正解者のうち5名の方に
図書カードを差し上げます。

まちがいは8つ



作・小田 求



【応募のきまり】

〈締切〉2025年6月10日（火）◇当選者は2025年7・8月号に掲載。

〈応募〉1人1通。はがき又はEメールで。

氏名（投稿はペンネームでも可）、院所名（職場・職種）、OBの方は在職時の法人名を記入の上、下記へ送付して下さい。

〒650-0047 神戸市中央区港島南町5丁目3-7
兵庫民医連ニュース「クイズ」係

〈Eメール〉kikansi@hyogo-min.com

※余白に、①興味深かった記事と感想、②事業所での取り組み紹介、③近況、④ニュースへのご意見等、お書き下さい。

3・4月号の応募者は9名で全員正解でした。右記の5名の方に図書カードを進呈。

- ①川内 真希（宝塚医療生協）
- ②村川美和子（神戸医薬研究所OB）
- ③伊藤 由佳（訪問看護ステーションあじさい）
- ④ナ ナ（ペンネーム）
- ⑤田畑 容子（東神戸薬局）

3・4月号
の答え



法人 topics

尼崎医療生活協同組合

連載コーナーです。

法人で“キラッと輝く”職員の、民医連で働き続ける理由や、こだわりを紹介します。

尼崎医療生協事務局 組合員活動部
みなみ ゆい

南 優衣さん

事務



入職したきっかけ

派遣会社からの紹介で派遣先が尼崎医療生協病院でした。

法人と派遣会社の契約が終了する事になり継続希望者は直雇用の試験を受ける話があったので採用試験を受け入職しました。

仕事でのこだわり・民医連で働き続ける理由

「事業とまちづくりはセット」の視点を持ち、組合員から相談できる・頼れる職員である事を意識しています。地域の困りごとに対応していくには多職種連携も必要になります。今私たちに求められている事が何なのかを常に考え、地域の困ったに対応できるようなリンクワーカーに近い役割を担えるような存在になりたいと思っています。

私はシングルマザーで子育てをしています。働き方への理解や配慮も大きく限られた収入でのやり繰りに苦労する事が多い中、社会的立場が弱い人にも寄り添ってくれるところに魅力を感じました。

プライベート

高校～大学時代にUSJ（ユニバーサルスタジオジャパン）でアルバイトをしていた事もあり年間パスポートを持っています。年間30回はパークに足を運びパレードやショーを鑑賞しながら季節感を感じることが最高の楽しみ方です。ハロウィンの時期にはロリータの服装でパークに行き、非日常的な生活でストレス発散しています！

尼崎医療生活協同組合

尼崎に9条の碑をつくり、 平和憲法を守ろう！！

組合員活動部 宮本 有希子

太平洋戦争終結から2025年8月で80年を迎えます。戦争を体験された方の高齢化は進み、戦後生まれの国民が87.9パーセント（2023年10月総務省統計局より）、戦争の記憶は薄れつつあります。戦争を知らない若い世代や未来の子ども達にも、日本国憲法第9条の平和主義の理念が継承されるよう、尼崎医療生協では2025年6月の9条の碑建碑を目指し、社保平和委員会事務局のメンバーを中心に実行委員会を立ち上げ、運動を進めています。

昨年の衆議院議員選挙では、与党が大幅に議席を減らし、憲法改正に前向きな勢力が、国会発議に必要な総定数の「3分の2」を割り込みました。しかし、世界に目を向けると、ウクライナ戦争やイスラエル・ガザ戦争と戦禍が広がっています。国際情勢の不透明感が高まる中、平和で戦争のない世の中でなければ、私たち民医連の

“無差別・平等の医療と福祉の実現”はできません。戦争放棄を謳った日本国憲法第9条を後世に伝えていくために9条の碑を尼崎につくらなくては！！という想いで運動に取り組んでいます。

尼崎医療生協職員や地域の組合員さん、患者さん、地域の民主団体の方からの募金でつくります。目標金額100万円に対し、3月末で54万円の到達です。引き続き、運動を進め9条の碑建碑運動を進めていきます。

9条の碑が完成しましたら、みなさんへもお知らせいたしますので、ぜひ、尼崎医療生協9条の碑にお立ち寄りください。

9条の碑、
ここに
建碑します！！

